発行：岡山大学広報・情報戦略室

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 6
2016. 10

OKAYAMA UNIVERSITY

TOPICS 1 国際原子力機関 IAEAと新しいがん治療法に関する協定を締結

岡山大学と国際原子力機関 IAEA は10 月 26 日、最新のがん治療法であるホウ素中性子捕捉療法（BNCT）について、協定を締結しました。調印式には岡山大学から森田潔学長、山本進一理事・副学長（研究担当）、IAEA から原子力科学・応用局物理化学部 Meera Venkatesh（メーラ・ベンカテッシュ）部長が出席して協定書に署名しました。BNCTに関するIAEAとの協定締結は世界初です。

本学と IAEA は本協定を締結する以前から協力関係にあります。これまでに、IAEA から専門家を招聘して 2 回の共同シンポジウムを実施しているほか、2015 年には国際ワークショップ「放射線の現在と未来」、2016 年にはシンポジウム「放射線と放射線治療の現在と未来」を開催してきました。これらの活動を通して、BNCT に関する研究、教育 プログラムの確立・導入にとって相互協力は有用であることが証明されています。松井教授とともに研究推進産学官連携機構の市川康明教授（特任）がIAEA とのさらなる協力活動に従事しています。

参考　http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6222.html

TOPICS 2 「おかやま円卓会議」と「国際学都シンポジウム」を開催

岡山県内の産官学等の代表が、地域の課題解決に取り組む「おかやま円卓会議」が10月1日に設立され、10月5日に本学で設立会議と第一回目の会議が開催されました。

設立会議では規約や人事について協議を行い、座長に山陽新聞社代表取締役会長の越宗孝昌氏、副座長に本学の森田潔学長が選出されました。事務局長は、4月に発足した「おかやま地域発展協議体」の委員長である本学の荒木勝理事・副学長（社会貢献・国際担当）が務めることとなり、今後の活動について意見交換が行われました。

また、同日にフランス・ストラスブール市より2人の講師を招き、「国際学都シンポジウム」を開催しました。本学は、ストラスブール市を学都のモデルとして位置付けており、ストラスブール大学長のミシェル・デネケン氏とユーロ・メトロポール（ストラスブール市広域自治体）の副議長を務めているカトリーヌ・トロットマン氏が記念講演を行いました。トロットマン副議長は、車社会が進む中で、人と環境に配慮した路面電車の復活や中心市街地の再生を行うなど、まちづくりのカリスマとしても知られています。

参考　http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6162.html

最近の大学の取組

カナダINRSと学生交流協定を締結

本学は9月29日、カナダでトップレベルの研究を進める大学院大学、ケベック先端科学技術大学院大学（INRS）と津島キャンパスで学生交流協定を結びました。今年2月に交わされた大学間交流協定に続き、学生交流協定を締結することで、幅広い分野の先端研究についての共同研究や情報交換、教員や学生の交流を進めていきます。

調印式には、INRSからイヴ・ベジン副学長、アリ・エルカカニEMTセンター代表を含む6人、本学から山本進一理事・副学長（研究担当）をはじめ、田中秀樹大学院自然科学研究科長、神崎浩大学院環境生命学研究科長など7人の教員が参加。ベジン副学長と本学の荒木勝理事・副学長（社会貢献・ 国際担当）の間で署名が行われました。その後、ベジン副学長らは森田潔学長を表敬訪問し、今後の人的交流の推進について意見を交わしました。

参考　http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6173.html

日本学生選手権で水泳部の中尾駿一さんが優勝！
本学初の快挙

TOPICS 3

9月2～4日まで東京辰巳国際水泳場で行われた第92回日本学生選手権（インカレ）に、本学水泳部の中尾駿一さん（マッチングプログラムコース3年）が出場しました。中尾さんは、50m自由形で22秒15のタイムで優勝。100m背泳ぎでも54秒44で2位に入賞し、ともに自己新記録で国際大会派遣標準を突破しました。本学の学生がインカレで優勝するのは初めての快挙です。

さらに、9月9～11日に盛岡で行われた岩手国体にも出場。成年男子50m自由形でリオオリンピック日本代表の塩浦選手に0. 06秒差の2位、100m背泳ぎで5位に入賞しました。

また、11月17～20日まで東京で開かれるアジア選手権に日本代表として選出され、好成績が期待されています。参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6176.html

TOPICS 4

学生代表 2 人が
世界ユースサミットに参加

本学経済学部 4 年のマーシャレク香怜さん、医学部 3 年の佐武秀紀さんが、カナダ・オタワ市で 9 月 28 日～10 月 1 日に開催された世界ユースサミット One Young World（OYW）に日本代表団の一員として参加しました。本学は、昨年タイ・バンコク市で開催されたサミットから公式パートナーとして参画し、毎年 2 人の学生代表と、オブザーバーとして横井篤文 学長特命（国際戦略担当）上級グローバル・アドミニストレーター（UGA）を派遣しています。

本年のサミットでは、カナダ政府が積極的に関わり、日本代表団に対して在日カナダ大使館が出発前に壮行会を開催し、またサミット開会式では国会議事堂前広場でトルドー首相がスピーチするなど、国を挙げての歓迎会が催されました。

マーシャレクさんと佐武さんは、国際セッションでの討論やワークショップ、ネットワーキング（交流会）などに参加。気候変動から戦争と平和、難民と移民、人権、教育、リーダーシップ、ソーシャルビジネスなど多岐にわたるディスカッションなどを行いました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6159.html

RESEARCH HIGHLIGHTS 1

LED と性フェロモンを用いた環境・生産に負荷の少ない
新型の害虫誘殺トラップを開発

岡山大学大学院環境生命科学研究科（農）の宮竹貴久教授、ベンハー芙蓉株式会社（岐阜県岐阜市）、富士フレーバー株式会社（東京都羽村市）らの共同研究グループは、貯蔵穀類の大害虫であるタバコシバンムシが、紫外領域（375nm）の LED の直射光に最もよく反応することを実証。LED と既存の性フェロモンの効果を組み合わせることで、メスオスともに捕獲できることを実際の食品工場で実証し、害虫の行動特性を利用した新型の害虫誘殺トラップの開発に成功しました。本研究成果は 10 月 19 日（米国東部時間午前 7 時）に、アメリカ昆虫学会の公式ジャーナル「Journal of Economic Entomology」（Oxford University Press）オンライン版に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id419.html

RESEARCH HIGHLIGHTS 2

ウイルスの遺伝情報を切断し、
増殖を防ぐ革新的技術を開発

岡山大学大学院自然科学研究科（工）生体機能分子設計学研究室の世良貴史教授、森友明助教（特別契約職員）らの研究グループは、標的ウイルスの遺伝情報である「ゲノム RNA」を短時間で切ることのできる“人工のハサミ”『人工 RNA 切断酵素』の開発に世界で初めて成功しました。この“ハサミ”は、標的ウイルスの遺伝情報である RNA に特異的に結合するようにデザインされたタンパク質で、ウイルスの RNA を消化する酵素を融合させた人工タンパク質です。本研究成果は 9 月 28 日、バイオテクノロジーの総合科学雑誌「Biochemical and Biophysical Research Communications」のオンライン版に公開されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id422.html

【お問合せ先】岡山大学広報・情報戦略室　メール：www-adm@adm.okayama-u.ac.jp